

# つながって つながって

九島大橋開通10周年記念 九島特集

平成28年4月、多くの人たちの尽力の末、九島住民の悲願だった九島大橋が開通しました。以来、島の生活は大きく様変わりし、さまざまな場所や交流が生まれてきました。橋が架かって今年で10年がたちます。この10年間での変化について、橋が架かる前から島を盛り上げる活動を行ってきた人や、新しく島に来て盛り上げようとしている人たちの話を紹介しながら、橋でつながったことで生まれた「つながり」に注目して特集します。



# 守られてきたものを、みんなで守り続ける

九島の自然と文化を守る会 代表 宮内 荘一さん



長く市外で働いていましたが、50歳で生まれ故郷の九島に帰ってきました。漁業に従事し、さまざまな役員なども務めながら過ごす中、改めて九島の魅力に気付き、2012年に開催された「えひめ南予いやし博」の自主企画イベントとして九島の自然と文化を守る会を立ち上げ「九島楽園案内人」と題してマップの作成やトレーニングガイド、レンタサイクルなどを行ってきました。また橋が架かる2年前からウォーキングイベント「九島くるりんウォーク」を毎年開催し、コロナで中止した年を除いて、昨年で10回目を迎えました。島をゆったり体感できるイベントとして好評で、今後も続けて

いければと思います。

橋が架かってからは毎年夏に橋のイルミネーションを行い、昨年10回目を迎え一区切りとなりましたが、たくさんの人に親しんでもらえました。車での往来が可能になったことで仕事の幅が広がり、救急車が来られるようになるなど生活が便利になったのはもちろん、橋が架かる前は無かった飲食店ができ、サイクリングやランニング、釣りなどで多くの人が島に来てくれるようになりました。海岸の道路が整備されて車で1周できるようなになれば、さらに魅力的になると思います。また若い人が移住して島を盛り上げてくれるのもうれしいことですし、移住者の受け入れ体制の整備も必要だと感じています。ここ数年行われていなかった市指定無形民俗文化財の「せんす踊り」を復活させようという動きもあります。先人たちの努力や守ってきたものを大切にしつつ、外からの力も借りながら、これからも九島を盛り上げていければと思います。

## ー 九島大橋開通後にできた主なものー



宇和島が舞台の映画「海すずめ」の公開を記念して建てられた「海すずめ展望所」。



宇和島百景630。フェリーが無くなってバスが走るようになり、島の新たな日常風景に。



九島診療所跡を活用した、島民の交流と健康づくりの拠点「島の保健室」。



廃校となった九島小学校を活用したレストラン「島の思い出ピアノ」。



Uターンした夫妻が営む、島を体験するごはん屋さん「nicco」。



宇和島百景532。新たな夏の風物詩となった「九島大橋イルミネーション」。



# つながって生まれたもの

橋でつながってからの変化や、島のこれからについて、  
島を元気にしようと取り組む人たちに話を聞きました。

## 子どもたちの「自慢のふるさと」に

ながたき農園 長瀧茂さん



高校までを宇和島で過ごし、大学進学、就職で市外へ出た後、宇和島に戻って市の臨時職員やバー経営、真珠の営業などを行ってきました。九島大橋が架かった2年後に妻の出身地である九島に家を建て家族で暮らす中で、ふと人口減少が進む島の未来に危機感を抱き、子どもたちのふるさとを守りたいと考えるようになりました。そのためには地元根付いた仕事があったと考え、40歳のときに、地元の基幹産業であり、義父も営んでいる、かんきつ農家になることを決めました。大変ですが、楽しみながら、おいしいかんきつが作れるように励んでいます。

次に、島のためにまず何ができ

るか考えたとき、お盆に高校生がかき氷を販売するという島の風習がコロナ禍で無くなっていたことから、夏季限定のかき氷屋をすることにしました。当時高校生だった長女や妻にも手伝ってもらいながらオープンしたところ、予想以上に好評で、たくさんの方が九島に来てくれました。何より島の人たちが来てくれたのがうれしかったです。また昨年は、ほかの移住者らとの交流で出たアイデアから「ブルーテラス九島」というBBQイベントを行いました。こちらもとても好評で、九島の可能性を再認識できました。

橋でつながったことで、島と外の交流が増え、九島の魅力を知ってもらいやすくなりました。今後は、国内外から九島に来てもらえるように、九島の資源を生かしたコンテンツを作ればと考えています。魅力的で豊かな島を目指し、できることに取り組んでいくことで、九島を離れた子どもたちが胸を張って帰ってこられる場所にしていければと思います。





## 島が元気であり続けるために

平井 富子さん



私は対岸の石応出身ですが、縁あつて九島に嫁ぎ、56年の歳月が流れました。島の人は優しい人が多く、楽しく過ごせています。

橋が架かつてからは、救急車やデイスービスの車が来られるようになるなど、生活が便利になりました。当初は交通量の増加などに戸惑いもありましたが、最近では島民も慣れてきたように思います。釣り人や若い人、海外の人もよく見るようになりましたし、宇和島東高校のボートレース大会や小学生の養殖鯛への餌やり体験な

どが、養殖業者さんの温かいご協力にぎやかに執り行われていきます。ただ、それまで当たり前だったフェリー内での島民同士の交流が無くなり、九島小学校が廃校となつて行事で集まる機会が無くなるなど、寂しく感じる部分もあります。

そんな中、こちらも閉鎖となつた九島診療所を活用し、島民の交流と健康づくりの拠点「島の保健室」がオープンしました。そこで行っている事業の1つ「見守り配食サービス」ではリーダーを務めさせてもらつていて、高齢者の家へ弁当を配達するとともに近況を聞き、見守りを兼ねて世間話をしています。ほかにもさまざまなボランティアに参加し、島を元気にするために活動しています。

それでも島民は減る一方で、空き家が目立つようになっていきます。移住してきた人やUターンで戻ってきた人たちと共に、島を盛り上げていきたいなと思います。私たちも微力ではありますが、お手伝いできれば幸いです。



## つながった先に

橋でつながって生まれたものは、便利な生活だけではありません。

行き来がしやすくなったおかげで、新たな人の流れや魅力的な場所ができ、さまざまな交流が生まれ、これまでにない動きへとつながっています。

そして、それはさらに進化しようとしています。

この機会に、改めて九島を訪れ、その魅力に触れてみてはいかがでしょうか。もしかすると、新たな「つながり」へと続いていくかもしれません。

